

検査項目	項目名	参考基準範囲	検査結果の見方
一般検査	尿蛋白	(-)	腎疾患や発熱などで(+)になる場合があります
	尿糖	(-)	糖尿病や腎性糖尿病で(+)になる場合があります
	尿潜血	(-)	腎臓、尿管、膀胱などの臓器に出血を認めるかを調べます
	便潜血	(-)	消化管出血などで、便に血液が混じっていないかを調べます
血液一般検査	白血球	4000~9000/ μ l	炎症反応がある場合い数値が上昇します
	赤血球	♂ 410~530/ μ l ♀ 380~480万/ μ l	貧血があると数値が低くなります
	血色素	♂ 14.0~18.0g/dl ♀ 12.0~18.0g/dl	
	ヘマトクリット	♂ 39.0~52.0% ♀ 35.0~48.0%	
	血小板	13.0~40.0万/ μ l	出血を止める働きをします 血小板数が少ないと止まりにくくなります
凝固機能検査	PT	9.0~13.0秒	止血するための凝固因子の働きを調べます 肝機能障害で延長します
	APTT	24.0~40.0秒	血液が凝固するまでの時間を調べます 特に血友病の指標になります
	D-ダイマー	1.00 μ g/ml以下	身体のだどこかに血栓ができていと線溶減少が亢進して高値になります
	出血時間	1.0~5.0分	皮膚からの出血が自然に止まるまでの時間 血小板の機能を反映します
	凝固時間	8.0~12.0分	採血してから血液が固まるまでの時間 止血作用を担う凝固因子の働きを調べます
栄養状態	TP	6.7~8.3g/dl	栄養状態を調べます 低栄養状態では数値が低くなります
	Alb	3.9~4.9g/dl	
肝臓検査	T-bil	0.2~1.2mg/dl	肝臓や胆管の閉塞性障害を調べます(黄疸で数値が高くなります)
	D-bil	0.0~0.2mg/dl	
	AST(GOT)	13~33IU/l	肝炎・脂肪肝・肝臓癌・心疾患など様々な原因で肝臓に障害が起きると数値が高くなります
	ALT(GPT)	8~42IU/l	
	γ -GTP	10~47IU/l	アルコールを多飲したり肥満などで、この数値が高くなり肝臓にも障害が起きます
	ALP	115~359IU/l	肝胆道系疾患で数値が高くなります
	LDH	119~229IU/l	体内に広く分布して、心臓、肝臓、腎臓、血液など様々な疾患で数値が高くなります
	NH3	12~66 μ g/dl	肝硬変などで肝臓の働きが著しく低下すると、この数値が高くなります
腎臓検査	BUN	8.0~20.0mg/dl	腎臓障害で数値が高くなります
	CRE	♂ 0.50~1.00 ♀ 0.20~0.80(mg/dl)	
	UA	♂ 3.4~7.8 ♀ 2.4~5.6(mg/dl)	アルコール多飲、高カロリーが続くと数値が高くなり痛風や腎障害を引き起こします
	β 2ミクログロブリン	0.2~2.0mg/l	糸球体濾過値の低下に伴い上昇します 腎糸球体障害の指標となります
	eGFR	90.0~ml/min	腎臓がどのくらい老廃物を尿として排泄する能力があるかを調べます
検査項目	項目名	参考基準範囲	検査結果の見方

心臓検査	CPK	♂ 62~287 ♀ 45~163 (IU/l)	心臓や骨格筋などの筋肉に多くある酵素です 心筋梗塞や脳梗塞があると数値が高くなります
	トロポニンI	0.04ng/ml以下	急性心筋梗塞の早期診断の指標となります
	BNP	18.4pg/ml以下	心不全の重症度や治療効果を判定するときに調べます
貧血検査	FE	♂ 54~181 ♀ 43~172 (μg/dl)	血液中の鉄の量を調べます 赤血球中のヘモグロビンを作る材料です
	フェリチン	♂ 50~200 ♀ 12~60 (ng/ml)	鉄分を貯蔵する蛋白で、低いと鉄欠乏性貧血になりやすい
	TIBC	♂ 231~385 ♀ 251~398 (μg/dl)	総鉄量を示し、貧血の鑑別目的でおこなわれます
	UIBC	♂ 111~255 ♀ 137~325 (μg/dl)	血液中の鉄が不足したした場合に数値が高くなります
膵臓検査	S-AMY	37~125IU/l	膵臓障害で数値が高くなります
糖尿病検査	血糖	50~109mg/dl	数値が高いと糖尿病が疑われます 食事の時間によって影響されます
	Hb-A1c(NGSP法)	4.6~6.2%	糖尿病に関する検査です 約1~2カ月の平均的な血糖レベルを反映します
脂質検査	T-cho	130~220mg/dl	動脈硬化症・糖尿病・肥満症などの脂質代謝異常で数値が高くなります
	HDL-cho	40.0mg/dl以上	別名、善玉コレステロールと呼ばれ、この数値が低いと動脈硬化が進みやすくなります
	LDL-cho	0~140mg/dl	別名、悪玉コレステロールと呼ばれ、この数値が高いと動脈硬化が進みやすくなります
	TG	30~150mg/dl	食事の影響を受けやすく、この数値が高い状態が続いた場合は動脈硬化が進みやすくなります
電解質検査	Na	134~147mEq/l	下痢・発汗・脱水などで数値が高くなります
	K	3.6~5.0mEq/l	腎臓障害で数値が高くなります
	Cl	96~107mEq/l	脱水症などで数値が高くなります
	Ca	8.4~10.2mg/dl	骨代謝異常で数値が高くなります
	IP	2.5~4.5mg/dl	
リウマチ検査	RF	20.0IU/ml以下	血液中のリウマチ因子の量を調べます リウマチ疾患で数値が高くなります
	MMP-3	16.1~56.8ng/dl	関節軟骨を分解・破壊する蛋白分解酵素で、関節リウマチ早期から値が高くなります
炎症反応	CRP	0.18mg/dl以下	身体に炎症がある場合に高くなります
	血沈	♂ 10mm以下 ♀ 15mm以下(1時間値)	
腫瘍マーカー	CEA	6.0ng/ml以下	消化器系がんのスクリーニング検査 特に胃がんや大腸がんの腫瘍マーカーとして知られています
	CA19-9	37U/ml以下	膵臓がんの特異性の高い腫瘍マーカーです
	PSA	4.00 μg/ml以下	前立腺の細胞から分泌される蛋白です 前立腺に特異的な腫瘍マーカーです

*ここに書かれている内容は、代表的な例です

詳しい説明は診察の際、担当の先生にお聞きください